

DOTSにおける
A病院との連携の取り組み
～すべての結核患者の治療完遂を目指して～

北部保健福祉事務所（大崎保健所）
技師 野村笑佳

まだある結核！

～みんな知ってる忘れてる～

H26新登録結核患者数

全 国 19,615人

宮城県 209人

1日に約54人の
新しい患者が発生

H26結核死亡率

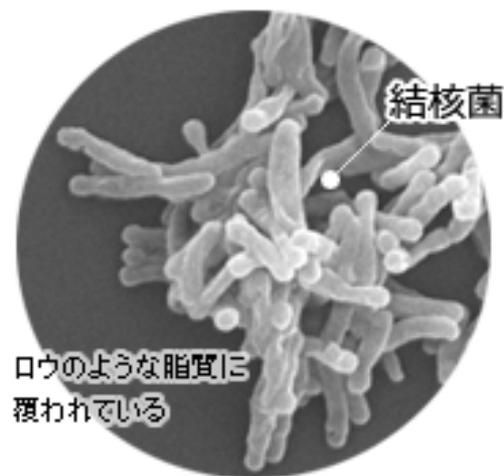
全 国 2,099人

宮城県 26人

1日に約6人が
結核で命を落とす

結核はどんな病気？

- 結核菌を吸い込むことによって、主に肺に炎症が起こる病気
- 薬をしっかりと飲めば治る
- 中途半端な治療は耐性菌をつくる
- 空気感染＝人から人にうつる



**薬をしっかりと飲み、
確実に治さなければならない病気**

保健所の結核対策業務

～感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律～

区分	業務
発病予防	予防接種（予防接種法），潜在性結核感染症治療
早期発見	定期健康診断，接触者健診
患者登録管理	患者発生届，入退院届，患者登録，精密検査
感染拡大防止	就業制限，入院勧告，移送，積極的疫学調査
医療	医療費公費負担，感染症診査協議会，服薬支援

結核対策の最重要課題

一人の患者が発生したら，その人が確実に治るよう支援する，それによって周囲の人をしっかりと守る

服薬支援

結核の治療は思ったよりも大変!

- 結核の治療に使われる薬は**3~4種類**



- 服薬治療は**6か月~9か月**，**1年**と長期間
- 副作用として**肝機能障害**（食欲不振・吐き気），**発疹**，**かゆみ**，**視力低下**，**指先のしびれ**などが出現
- 咳，痰，発熱，倦怠感等の**症状は2週間程度で軽快**

DOTSとは

DOTS(Directly Observed Treatment, Short course)
直接服薬確認療法。確実に服薬できているかを医療従事者が直接服薬を見守り確認する方法。治療完遂を目指す。

- WHOは1990年代から結核の包括的戦略としてDOTS戦略を提唱，各国がこれに沿って結核対策に取り組んでいる
- 日本では2000年度から大都市を中心に導入
- 感染症法に法的根拠を設け，国を挙げて取り組んでいる事業

DOTSに基づく服薬支援

1か月

2か月

3か月

4か月

5か月

6か月

慣れてきた頃
飲み忘れる



分かっているけど
飲み忘れる



理由なく
飲み忘れる



理由なく
飲み忘れる



ただ単に
飲み忘れる



病院

- 症状，副作用，各種検査結果等の病状把握
- 治療
- 服薬指導

治療開始

治療終了

受診

受診

受診

受診

受診

受診

通院

家庭訪問

家庭訪問

入院

入院

退院

患者面接

患者面接

家庭訪問

家庭訪問

家庭訪問

家庭訪問

保健所

- 患者の状況に合わせ，受診同行や家庭訪問，所内面接等による服薬支援

病院と保健所の連携

連携のはじまり～病院の思い～

これまでの結核患者との関わり

- 外来で治療可能な結核患者の治療
- 結核患者の確定診断
- 結核病棟を持つ専門病院への紹介

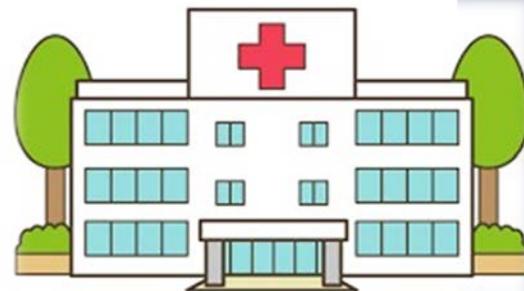
これからの結核患者との関わり

新病院へ移転予定

→結核患者との関わりは増加していく

**結核に関する知識の習得と
院内感染対策の必要性の高まり**

結核に関する
病院での
取り組みを
強化したい



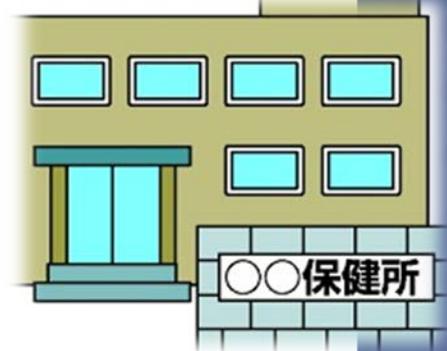
連携のはじまり～保健所の思い～

外来患者や確定診断後の入院
患者に対する初回面接等,

事例を通して連携の必要性を実感

合併症を有する結核患者等への役割期待

個別事例への対応,
管内の結核医療の
向上のために
連携は重要



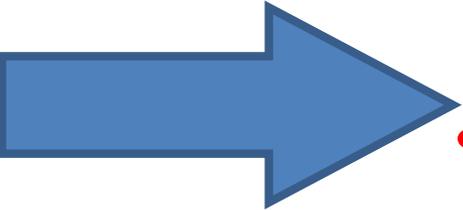
A病院結核研修会 H26.5.28

参加者8名：呼吸器内科医師，外来・病棟看護師，薬剤師，感染管理室

- 講座「DOTSとは～地域内連携で患者を支える～」
DOTSとは，保健所の関わり，病院と地域関係者との連携…

- 意見交換

お互いの関わりを理解できていない部分がある
保健所に相談できない

- 
- お互いの役割や関わりを知り，
課題や支援方針を共有する
 - 顔の見える関係を築き，日頃から
相談し合えるようにしておく

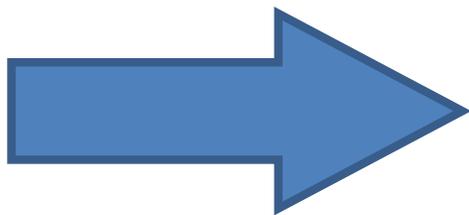
DOTSカンファレンス① H26.12.15

出席者7名：感染管理室，病棟看護師長，外来看護師，保健師

対象者2名：呼吸器内科，小児科

○治療中の患者についての検討

- ・当所からの報告（自宅での生活の様子，病気・治療への思い，服薬支援状況・・・）
- ・病院からの報告（治療方針，外来受診時の様子・・・）
- ・課題と今後の支援方針についての検討



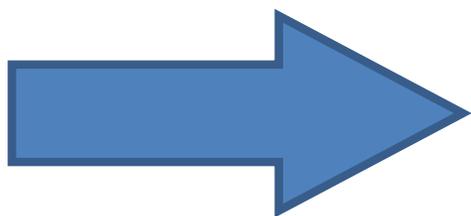
お互いの役割や実際の関わり，
患者のとらえ方等を具体的に
理解し合うことで，課題と支援
方針を共有できる

DOTSカンファレンス② H27.3.13

出席者8名：感染管理室，外来看護師，保健師

対象者8名：呼吸器内科・小児科

- 治療中の患者についての検討
- 治療を終えた患者への関わりについて振り返り



服薬手帳を活用することで，支援者が共通認識のもとで患者への関わりを持てる

服薬手帳



患者・家族 記載

外来 記載

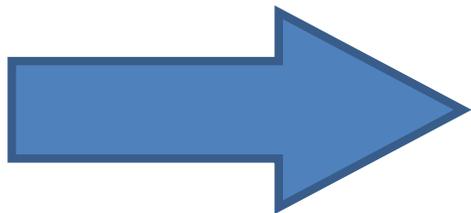
服薬		(平成 年 月)				記録
服薬開始から	月日	薬				
		INH	RFP	EB	PZA	
						<p>服薬確認 サイン</p> <p>保健所保健師 記載</p> <p>【在宅療養の記録】</p> <p><input type="checkbox"/> 訪問・面接・電話</p> <p>平成 年 月 日</p> <p><input type="checkbox"/> 現在の症状</p> <p>無・有()</p> <p><input type="checkbox"/> 服薬状況 規則的・不規則</p> <p><input type="checkbox"/> 服薬確認</p> <p>服薬手帳・空き袋・残薬</p> <p><input type="checkbox"/> 副作用 無・有()</p> <p>【コメント】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; height: 100px; width: 100%;"></div>
						<p>【外来受診時の記録】 受診日:平成 年 月 日</p> <p>症状: <input type="checkbox"/>なし <input type="checkbox"/>あり()</p> <p>副作用: <input type="checkbox"/>なし <input type="checkbox"/>あり()</p> <p>服薬状況: <input type="checkbox"/>規則的 <input type="checkbox"/>不規則</p> <p>確認者:</p>

DOTSカンファレンス③ H27.7.3

出席者9名：感染管理室，呼吸器内科病棟・外来看護師，
小児科外来看護師，保健師

対象者15名：呼吸器内科，小児科

○治療中の患者についての検討



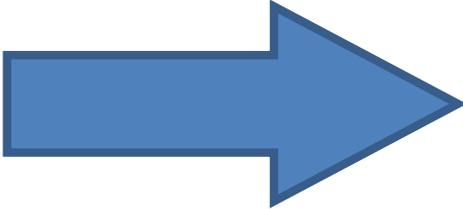
関わりが難しい事例については、
それぞれの立場からできることを
考えながら
時間をかけて検討することで、
支援方針を統一して関われる

DOTSカンファレンス④ H27.12.11

出席者11名：感染管理室（医師），呼吸器内科病棟・外来看護師，
小児科外来看護師，保健師

対象者19名：呼吸器内科，小児科

- 支援の位置づけ，支援の目的を再確認
- 治療中の患者についての検討
- 今後の連携の在り方についての提案
DOTSカンファレンスの開催頻度の見直し，勉強会の開催



支援の目的を再確認することで，
今後の連携の強化・継続の必要性を
確認でき，
今後の方向性について検討できる

今後の展望

- カンファレンスの開催頻度，内容の見直し
- 定期的な勉強会の開催
- 呼吸器内科病棟との関わりの強化
- 結核患者への関わりを振り返る機会（コホート検討会）の設定

まとめ

- ・ 結核患者の服薬支援における病院と保健所の連携は、患者支援の質の向上につながり、**患者の安定した療養生活と治療完遂の一助**となる。さらに、公衆衛生上の観点からも**薬剤耐性結核の蔓延を防止する重要な活動**である。

- ・ 課題として、A病院を受診する結核患者の増加と複雑な背景を持つ事例の増加があるため、さらに**連携を強化して患者支援の質の向上を図り、すべての結核患者の治療完遂を目指して活動していく必要がある。**